

## 【中学校 第2学年】

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	全国平均
国語	63.0	67.0	64.0
社会	50.7	51.2	50.0
数学	60.9	57.8	60.1
理科	56.1	58.8	56.1
英語	52.1	54.5	53.2

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、生徒が正答できることを期待した割合を示したもの。

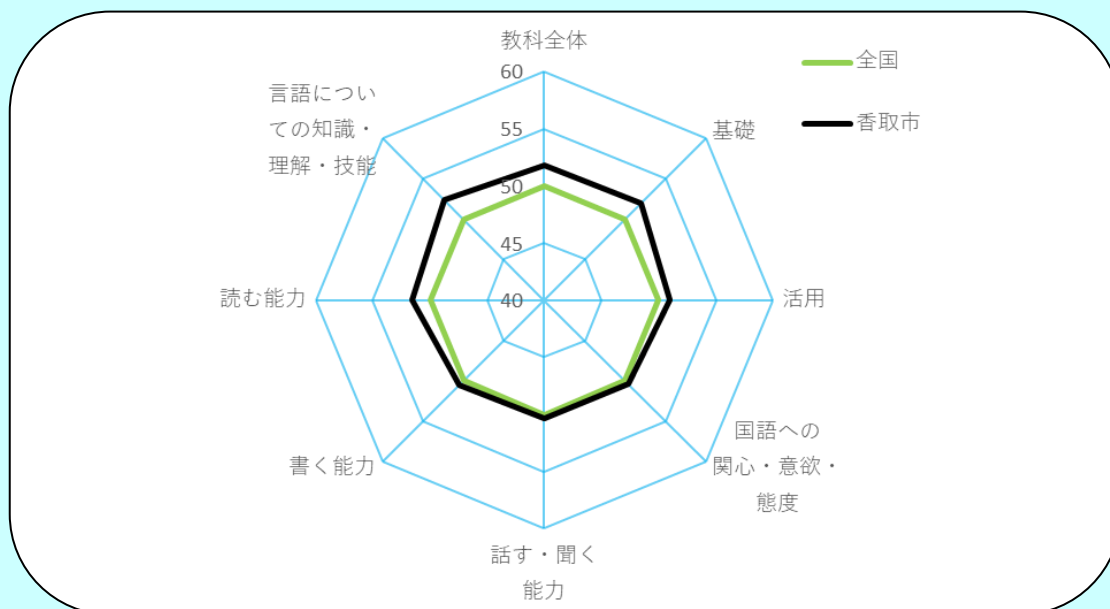
### [全体的な傾向]

教科別に市平均正答率と全国平均正答率（以下、全国平均）を比較すると、国語、社会、理科、英語は、今年度も継続して上回っている。数学は、今年度は全国平均を下回る結果となった。

### 中学校の教科ごとの傾向

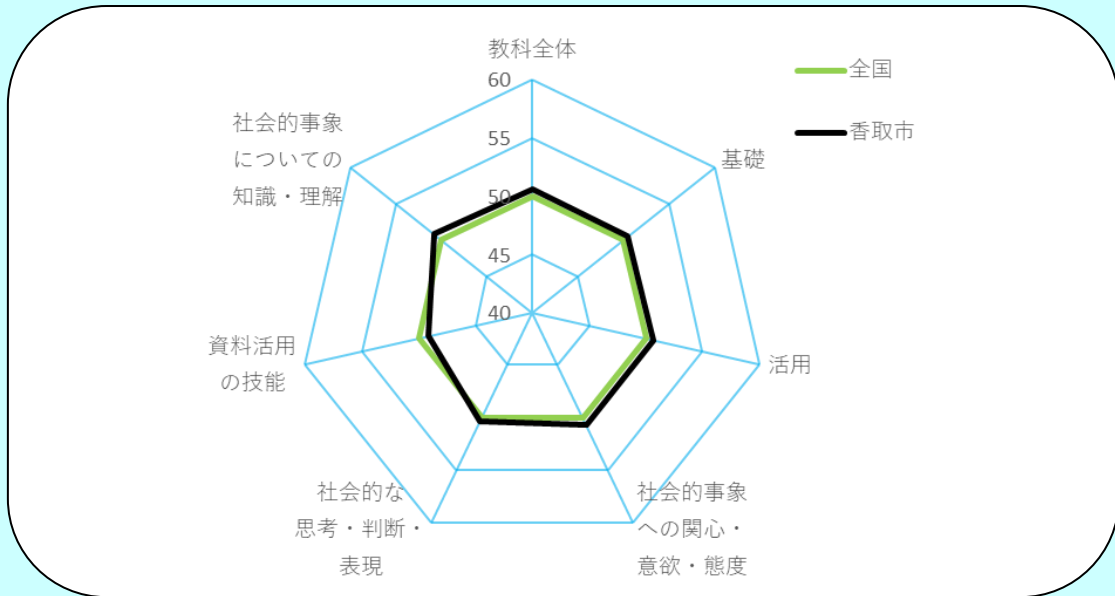
#### 【国語】

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



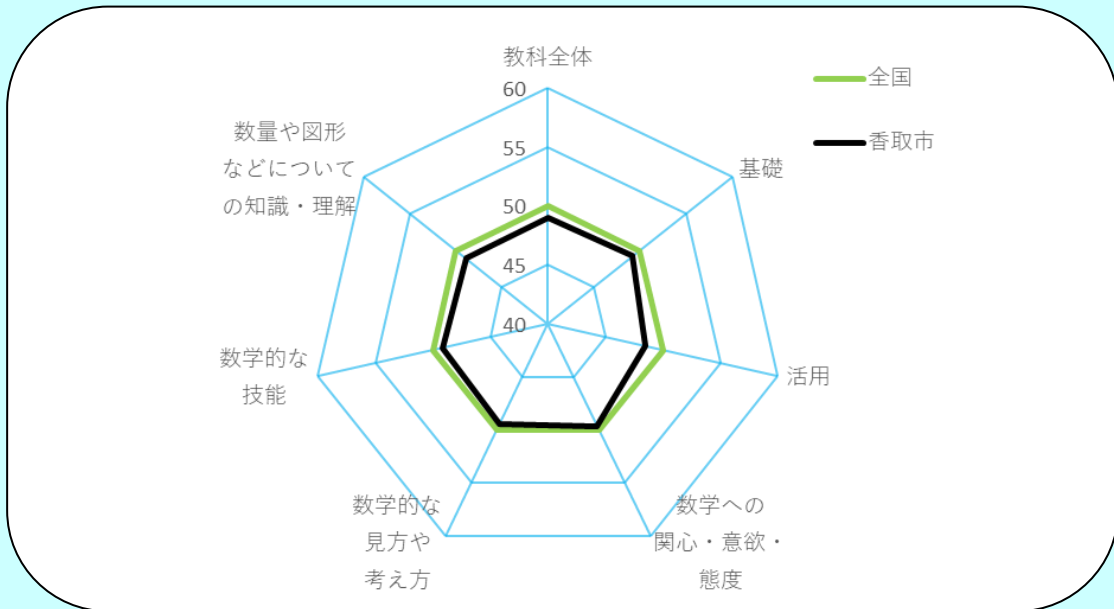
「基礎」「活用」とともに全国平均を上回る結果であった。また、「読む能力」が全国平均を上回り、特に文学作品の登場人物の心情や関係性等を読み取る内容で正答率が高く成果が見られた。

【社会】



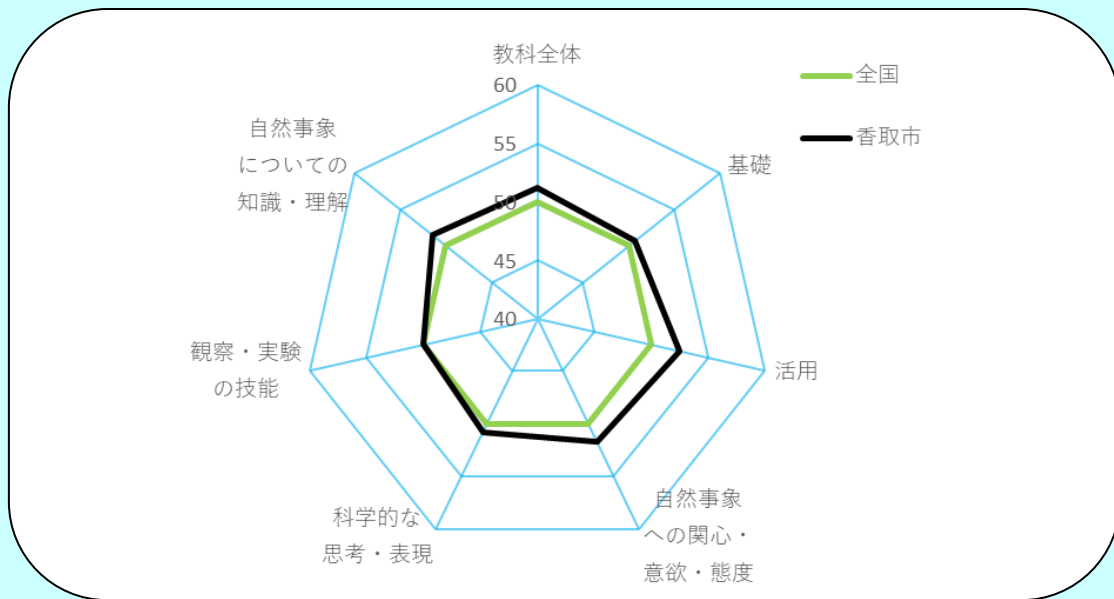
「基礎」「活用」ともに全国平均を上回る結果であった。また、「社会的事象についての知識・理解」で全国平均を上回り、特に日本の地域構成を問う内容で正答率が高く成果が見られた。「資料活用の技能」では、特に農作物の生産について『資料を基に把握すること』に課題が見られた。そこで、土地の条件による影響や促成栽培による出荷時期についても触れて理解を深められるように工夫をする必要がある。

【数学】



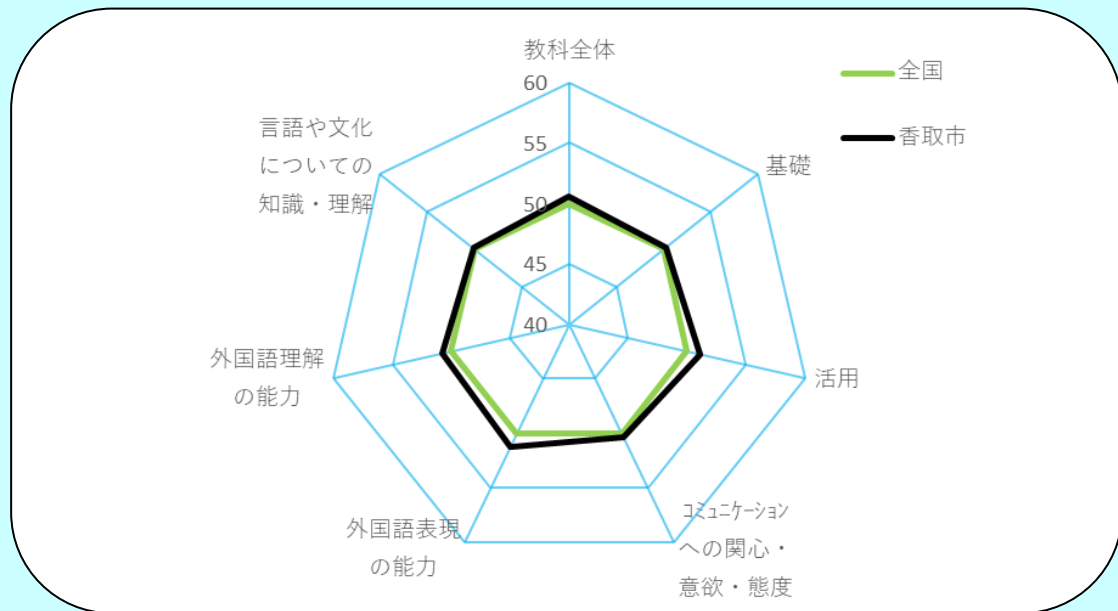
「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果であり、特に「活用」は継続した課題である。活用問題では、特に『1次関数のグラフの交点の座標が意味するものを説明する』問題で課題が見られた。そこで、数量の変化や対応を調べる場面を設定して、グラフ上の特定の点の意味を踏まえて説明したりする機会等を増やすなど、具体的な事象とグラフを関連付けて捉えることができるように学習活動を工夫する必要がある。

【理科】



「基礎」「活用」ともに全国平均を上回る結果であった。また、「自然事象についての知識・理解」が全国平均を上回り、特に『生物と細胞』に関する知識を問う内容の正答率が高く成果が見られた。「観察・実験の技能」は全国平均と同程度だが、回路を回路図に表すことに問題が見られた。そこで、電気用図記号を用いることの便利さを理解させるとともに、電源の＋や電流計などを書く際に繰り返し確認するとよい。

【英語】



「基礎」は全国平均と同程度、「活用」は全国平均を上回る結果であった。また、「外国語表現の能力」が全国平均を上回り、英作文を書くことに成果が見られた。「言語や文化についての知識・理解」は全国平均と同程度だが、語形・語法を理解すること（動名詞）に課題が見られた。そこで、動名詞を後ろにとる基本的な動詞を整理し、定着を図るために、これらを活用する自己表現活動などを工夫する必要がある。